

## 嘉平山を候補地とすることに対する否定的な主な意見

(※以下、意見が寄せられた場面)

- ・ 1回目パブリックコメント（令和7年4月～6月）
- ・ まちづくり協働座談会（5月）
- ・ 市民説明会（7月）
- ・ 2回目パブリックコメント（10月）
- ・ 四地区区長との意見交換会（10月～11月）

## 1 立地の不便さ・アクセスの問題

- 市の中心部から遠く、徒歩や自転車での利用が困難。現在の主な利用者である高齢者や学生が気軽に通えなくなるという懸念が強い。
- 国道を越える必要があり、子どもや高齢者にとって安全面の不安が大きい。地下道利用や冬季・悪天候時の移動も負担になる。
- 自家用車を持たない人、免許返上後の高齢者、小中高生にとって不利。デマンドタクシーに頼る計画にも疑問がある。

### 【これまでに市が示してきた考え方】

- 建設候補地に関しては、市民の皆様からいただいた多様なご意見を今後も丁寧に受け止めながら、専門的な知見も踏まえて、できる限り多くの皆様にご利用いただけるよう、望ましい方向性を見出してまいりたいと思います。
- 生涯学習施設は、地区住民に限らず、市内全域の市民の皆様にご利用いただくことを前提としております。全ての地域から徒歩でお越しいただけるわけではありませんが、できる限り多くの方がアクセスしやすい立地となるよう検討を進めてまいります。また、「のれんす号」の活用に加え、定期バスの運行についても検討してまいりたいと考えております。
- 生涯学習施設は市民全体の施設として位置づけておりますが、現在の図書館と中央公民館は、これまで主たる利用の実相としては、中条地区の皆様としての役割を果たしてきたものと受け止めており、中条地区においても、乙、築地、黒川地区の地区公民館等と同様に、図書室を併設した公民館的な機能については、既存施設の活用等を含め、その機能を維持していくことを基本方針としております。
- 嘉平山にこだわる理由も、ごり押しする意図も全くございません。逆に中心市街地に広々とした適切な場所があれば、それが最も望ましいと思っています。しかし現実には、用地取得が不要で十分な広さを確保できる場所はなかなか見つかりません。また、誰もが歩いて行ける施設は理想ですが、物理的には成り立たず、多くの人は歩いて通うことはできません。そのため、最大公約数的にどの場所が適しているかを選ぶことが現実的な対応だと考えています。
- 嘉平山は中条駅から直線で1 km程度と中条駅を除いた他の候補地よりも近く、幹線道路にもアクセスしやすい場所にあり、近隣に民間の商業施設や住宅もあります。したがって、中心市街地の定義ははっきりしないものの、コンパクトシティの考え方からも全く外れているわけではなく、市街地から遠く離れた場所ではないと捉えています。なお、当初嘉平山を有力な候補地として挙げていましたが、まだ決定したわけではなく、場所については様々な意見をお聞きしながら決めていきたいと考えています。

## 2 安全面への不安

- 山が近く、熊など獣が出没しやすい地域であることから、日常利用や屋外活動時の安全性に不安がある。
- 過去の水害被害や土砂崩れの可能性、活断層（楕形断層）との関係で、災害時の安全性に疑問がある。
- 交通量の多い国道を徒歩・自転車で横断する必要があり、子どもや高齢者にとって危険。冬季の積雪時はさらに利用しづらくなる。

### 【これまでに市が示してきた考え方】

- どこにいるかわからないクマを搜索するのは大変ですが、限られたエリアでクマが近づかないよう対策を講じることは可能だと考えています。
- 嘉平山と楕形山脈断層帯（加治川断層）との関係について、専門家にお聞きしたところ、活断層から1 km程度離れており、断層が活動しても、地震断層や地盤の変形が起こる場所ではなく、隠れた断層がありそうな地形でもないとのこと。

## 3 費用・財政負担の大きさ

- 更地にする造成工事や、道路・上下水道などのインフラ整備が必要で、他候補地よりコストが高くなる。
- 高額な建設費をかけても、立地条件から十分に活用されず、「使われない施設」になる懸念がある。
- 広い敷地ゆえの除雪費、駐車場や公共交通（バス等）の維持費など、将来にわたる継続的な支出を確保できるのか疑問。

### 【これまでに市が示してきた考え方】

- 基本計画（案）の中でもお示ししているとおり、概算事業費は造成費等の整備費を含めた建設コストの最大値として設定しております。したがって、今後は、設計者のアイデアや提案を柔軟に取り入れながら、可能な限りの効率化・縮小化を図り、コストの削減に努めてまいります。  
費用面につきましては、可能な限り施設の効率化及び規模の適正化を図り、コストの低減に努めてまいります。  
また、財源については、国の補助金等の活用を図るとともに、4年後の運転開始が予定されている洋上風力発電事業から生じる、安定的かつ長期的な固定資産税収についても少なからぬ財源確保に資することが見込まれております。
- 概算事業費は、基本構想に基づき、施設に必要な諸室・スペースの面積を積み上げて算出した延床面積に基づいています。建設費の内訳には、設計費、工事費、システム構築費、備品費など、すべての関連経費が含まれており、今後の物価上昇も考慮した上で算出した合計金額（上限）となります。したがって、建設地がどこに決定しても、本概算事業費を最大値とし、設計者のアイデアや提案を取り入れつつ、効率化や縮小化を図り、可能な限りコスト削減に努めていきます。

#### 4 まちづくり・中心市街地への影響

- 人口減少が進む中、施設を中心地から離れたところに新設すると利用者減少を招きやすく、街全体をコンパクトにするという今後のまちづくりを考えるべきである。
- 公共施設が街中からなくなることで、人の流れが外へ向かい、空き家・空地増加や商業衰退など、中心部の空洞化が一層進む懸念がある。
- 市役所、学校、駅など既存施設との動線上に立地すれば、利用者の利便性が高まり、市街地の活性化にも寄与する。

#### 【これまでに市が示してきた考え方】（再掲）

- 生涯学習施設は市民全体の施設として位置づけておりますが、現在の図書館と中央公民館は、これまで主たる利用の実相としては、中条地区の皆様の施設としての役割を果たしてきたものと受け止めており、中条地区においても、乙、築地、黒川地区の地区公民館等と同様に、図書室を併設した公民館的な機能については、既存施設の活用等を含め、その機能を維持していくことを基本方針としております。